

# 施策評価シート

幹事部局

教育庁

<b>施策の名称</b>	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用
<b>施策の目的</b>	全国に誇る島根固有の歴史・文化についての保存・継承と、調査研究を進め、その魅力を県内外に積極的に発信し、歴史・文化を通じた人々の交流を促します。
<b>施策の現状 に対する評価</b>	<p>(歴史文化遺産の保存・継承)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>優れた文化財の国・県指定を進めるとともに、破損や経年劣化した指定文化財の保存修理や技術の継承等に対して支援を行うことにより、保存・継承を進めてきたが、今後も、大規模な修理を要する重要文化財建造物等が数多く残っている。</li> </ul> <p>(歴史文化遺産の研究と情報発信)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別展「出雲と大和」は13万6千人が来場し、全国における島根の歴史文化への興味・関心が高まったが、新型コロナウイルス感染症の影響がある中で、こうした機運の高まりをどのように継続していくかが課題である。</li> <li>調査研究や県外講座等の情報発信を行うことで、石見銀山遺跡の価値や魅力を全国に広く伝えたが、一般への認知度を更に高めていくことが課題である。</li> <li>古代出雲歴史博物館では令和元年度の休館期間中に常設展のリフレッシュや館内環境の整備等を行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響で入館者数は大幅に減少している。</li> </ul> <p>(歴史文化遺産の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本遺産として、新たに「中世日本の傑作 益田を味わう～地方の時代に輝き再び～」(益田市)と、「石見の火山が伝える悠久の歴史～“縄文の森”“銀の山”と出逢える旅へ～」(大田市)の2件が認定され、県内の日本遺産は7件となったが、知名度が不足している状況である。</li> </ul> <p>(前年度の評価後に見直した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の保存活用に関する基本的な方向性を明確化し、県内におけるさまざまな取組を進める上で共通の基盤とするため、「文化財保存活用大綱」の策定を進めている。</li> <li>感染症対策としてWeb等を活用した情報発信を強化し、研究論文の電子公開や、動画、クイズ、電子書籍等コンテンツの配信に取り組んでいる。</li> </ul>
<b>今後の取組 の方向性</b>	<p>(歴史文化遺産の保存・継承)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市町村や所有者等と指定文化財の状態を共有し、破損や経年劣化の激しい文化財から優先的に修理を進めるなど、長期的な観点から計画的に支援を行う。</li> </ul> <p>(歴史文化遺産の研究と情報発信)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>島根への興味・関心や来訪意欲の向上を目指し、引き続き、県内外やWeb上での講座、シンポジウムによる情報発信や、奈良県などと連携した共同研究・イベント等を実施する。</li> <li>石見銀山遺跡の価値や魅力が広く理解され、興味関心が高まるよう、分かりやすい研究テーマ設定や成果の見せ方の工夫、講座やパネル展示の情報発信等を効果的に行う。</li> <li>古代出雲歴史博物館の入館者数の増加に繋げるため、リフレッシュした常設展に加えて企画展や特別展等の内容の充実や魅力の向上を図るとともに、県内外へのPRや、地元地域・学校等への幅広い周知を行い来館を促す。</li> </ul> <p>(歴史文化遺産の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>島根の日本遺産の知名度向上や認定地域来訪のきっかけとするため、認定団体と連携した講座やワークショップの開催、県外に向けた観光PR等の情報発信を継続的に行う。</li> <li>県内外の方に配信コンテンツをより広く利用していただくため、コンテンツの更なる充実(最新情報の提供、双方向オンライン講座等)や、SNS、パブリシティ等を活用して実施内容を広く周知していく。</li> </ul>



事務事業の一覧

施策の名称		VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用				
	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	指定文化財等保護事務	①県民 ②文化財所有者	県民が郷土への愛着や誇りを持てるよう、文化財を将来にわたって確実に継承し、活用できるようにする。	4,005	5,433	文化財課
2	歴史遺産保存整備事業	県民、文化財所有者・保持団体	文化財の損壊や滅失を防ぎ、将来へ確実に継承していく	98,132	114,817	文化財課
3	八雲立つ風土記の丘事業	県民及び県外からの来訪者	風土記の丘地内の史跡や文化財を通して県内の文化財への興味・関心を高め、文化財を身近なものと感じるようにする。	61,540	66,334	文化財課
4	古墳の丘古曾志公園事業	県民及び県外からの来訪者	古代の文化遺産の保存と活用を図り、県民の古代文化についての理解と認識を深める。	6,230	6,792	文化財課
5	古代出雲歴史博物館管理運営事業	古代出雲歴史博物館の利用者及び県内外の人々	島根の歴史文化に関する研究成果の発信、学習・交流機会の提供により、県内外の方々に島根の歴史文化の魅力を発信し、理解してもらう。	676,897	393,465	文化財課
6	埋蔵文化財保護事務	県民(開発事業者)	開発にあたり貴重な文化財が破壊あるいは消失しないよう、計画段階で必要な協議を行い、適切な調整がとられるようにする。	4,247	5,284	文化財課
7	文化財活用事業	県民	子供から高齢者まで幅広い世代に島根県の歴史文化を学習する機会を積極的に提供し、ふるさとを誇りに思う心を醸成することで、県民の心に豊かさの向上に寄与する。	2,913	3,627	文化財課
8	埋蔵文化財調査センター事業	県民、公共事業者	開発地域内の埋蔵文化財調査を行いその価値を明らかにして、調査で得た情報を県民に還元すると同時に開発事業と文化財保護との調整を円滑に行い、適正な公共事業の促進を図る。	384,464	789,893	文化財課
9	古代文化の郷「出雲」整備事業	県民・市町村	出雲部に存在する貴重な文化遺産を、野外博物館としてネットワーク化を図り、物語性のある歴史探訪ルートとして活用してもらう。	26,032	29,972	文化財課
10	未来に引き継ぐ石見銀山保全事業	県民、国民等	世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値を高め、未来に継承していく。	105,489	120,712	文化財課
11	古代文化研究事業	県内外の人々	県内外の人々に、しまねの豊かな歴史文化の研究成果を情報発信することで、県民に郷土に対する自信と誇りを高めてもらうとともに、県外の人々に島根県の魅力を知ってもらう。	35,838	47,654	文化財課
12	島根の歴史文化活用推進事業	県民、国民等	しまねの豊かな歴史文化を、県民、国民に広め、県民には郷土への自信を培ってもらい、県外の方々にしまねの歴史文化の素晴らしさを知ってもらう。	286,194	62,588	文化財課
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						

## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		指定文化財等保護事務			
目的	誰(何)を対象として	①県民 ②文化財所有者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	県民が郷土への愛着や誇りを持てるよう、文化財を将来にわたって確実に継承し、活用できるようにする。		4,005	5,433
			うち一般財源 (千円)	4,005	4,883
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島根県文化財保護審議会の開催</li> <li>・文化財保護法や島根県文化財保護条例等に基づく指定文化財の調査・指定事務及び修理・整備指導</li> <li>・文化財愛護意識醸成のための普及啓発事業や博物館法に基づく博物館の登録事務</li> <li>・銃砲刀剣類取締法に基づく銃砲刀剣類登録事務</li> </ul>				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	県指定の候補となる文化財を新たに選定し、調査に着手した。文化財保護の機運醸成や文化・教育・観光などにおける活用について、その指針となる「文化財保存活用大綱」の策定を進めている。				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	国指定・県指定文化財の指定件数【当該年度4月～3月】	目標値		4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	件	単年度 値
		実績値	4.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実	<p>令和元年度は国指定史跡として、大元古墳群(益田市)が指定された。</p> <p>また、記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財として山中のお改めとシシ狩り行事(江津市)が選択された。</p> <p>県指定文化財としては、鳥居南遺跡祭祀遺物(大田市)、九条袈裟(出雲市)が指定された。</p>									

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	島根県文化財保護審議会委員や、文化財各分野の専門家と連携し、県内の文化財の調査研究を進め、文化財指定等を着実に進めた。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財所有者によっては、指定文化財の将来にわたる維持管理について不安を感じている。</li> <li>・文化財を多く所有する寺社等で、文化財を保存管理していくことが難しくなっている事例がある。</li> <li>・文化財を管理する市町村によっては、文化財の調査研究、保存・継承、活用が難しい状況にある。</li> </ul>
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財の維持管理にあたり、所有者に過重な経済的負担がかかっている。</li> <li>・人口減少や高齢化といった社会構造の変化などにより、担い手である寺社の檀家や氏子が減少しているところがある。</li> <li>・市町村によっては、文化財専門職員の不在や職員の専門分野の偏りにより十分な文化財の保存管理が行えないことや、文化財保管施設の不足などの問題が生じている。</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財を修理するための財政支援制度や、保存環境の整った博物館・美術館等への寄託等の手段があることを、所有者に向けて情報提供や助言を行う。</li> <li>・県内の未指定の優れた文化財について、その価値を調査・研究を通して磨き上げ、新たな指定を目指すことなどにより、島根の歴史・文化の次世代への保存・継承を着実に進めていく。</li> <li>・文化財保護の機運を醸成するため、学校教育・社会教育現場で教材として活用するなどの方法により、積極的な文化財の活用を図っていく。</li> <li>・県と市町村、各市町村間、民間団体等との連携を深めて、文化財の調査研究、保存・継承、活用を進めていく。</li> </ul>

## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		歴史遺産保存整備事業			
目的	誰(何)を対象として	県民、文化財所有者・保持団体	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	文化財の損壊や滅失を防ぎ、将来へ確実に継承していく		98,132	114,817
			うち一般財源 (千円)	90,739	113,602
今年度の取組内容	国及び県指定の文化財のうち、経年による傷みが進行して保存が危ぶまれるものや、技術等の伝承が危ぶまれるものについて、その修理等に要する経費の一部を助成する				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	市町村との情報共有を図り、計画的に事業を実施出来るよう調整を行った				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	歴史遺産保存整備の補助要望に対する採択割合【当該年度4月～3月】	目標値		87.0	87.0	87.0	87.0	87.0	%	単年度値
		実績値	86.3							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値							%	
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		前年度6月の補助要望件数に対する採択件数が占める割合 H30年度事業分 17件/23件(73.9%) H31年度事業分 19件/22件(86.3%)								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	指定文化財の保存修理状況 ○令和元年度で完了した事業：県指定有形文化財並河家住宅保存修理 ○継続して実施している事業：重要文化財旧大社駅本屋保存修理、重要有形民俗文化財菅谷たたら山内保存修理 ○令和2年度から開始する事業：史跡富田城跡防災施設整備
課題分析	① 課題	指定文化財の所有者が個人の場合、保存修理や維持管理等に多大な経費を要することがあるため、経費の負担が難しい場合がある
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因
	③ 方向性	指定文化財の傷みが進行する前に保存修理事業に取りかかるため、文化財の状態を所有者・地元教育委員会等・国で共有し、計画的に保存修理事業を実施する

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		八雲立つ風土記の丘事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び県外からの来訪者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	風土記の丘地内の史跡や文化財を通して県内の文化財への興味・関心を高め、文化財を身近なものと感じるようにする。		61,540	66,334
			うち一般財源 (千円)	60,019	64,548
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語パンフレットやホームページ、SNS等を活用した情報発信、史跡音声ガイド端末や電動アシスト自転車による利用促進を図る。</li> <li>・近隣学校及び公民館の行事受け入れ、大・小さまざまなイベントの開催、魅力的な展覧会を開催する。</li> <li>・展示内容の充実、複数ある施設の維持・管理・運営を確実にやっていくとともに、ガイド養成などによる専門的知識を有した人材の確保など、長期的、計画的な視点に立った運営を行う。</li> </ul>				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画配信サイトやSNS等を通じた情報発信の強化</li> <li>・地域団体等と連携し、周辺史跡の歴史を学ぶイベントの企画</li> </ul>				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	八雲立つ風土記の丘展示学習館、山代二子塚土層見学施設、ガイダンス山代の郷の入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		24,000.0	24,000.0	24,000.0	24,000.0	24,000.0	人	単年度値
		実績値	23,811.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> <li>・総入館者数(展示学習館、土層見学施設、ガイダンス山代の郷) 23,811人(前年度比204人増)</li> <li>・企画展開催数 展示学習館(企画展1回、ミニ企画展5回)、ガイダンス山代の郷(ロビー展2回)</li> <li>・普及活動事業として、土器製作や火起こし体験などの教室(443人)、風土記の丘教室(1,029人)、風土記植物園での観察会(53人)、こどもまつり(2,000人)などの各種イベント、様々な企画を実施</li> </ul>								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域団体等と協力し、クイズを解きながら周辺史跡を周遊するウォーキングイベントを実施</li> <li>・子供向け新聞に連載を行い、文化財を身近に感じてもらうとともに、同連載と関連した企画展を実施</li> <li>・敷地内の風土記植物園について、地元の各種ボランティア団体・個人の協力を得て、草取りや清掃活動を行い、良好な環境を維持。</li> </ul>
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門性や史料的価値の高い展示を行い、歴史文化に興味の深い客層が一定数来館されるが、リピーターが多く新しい客層の来館が少ないため、入館者増につながらない。</li> <li>・史跡出雲国府跡をはじめとする風土記の丘地内の周遊につながらない。</li> </ul>
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風土記の丘地内の情報が県内外へ十分に発信できていない。</li> <li>・周辺の文化施設・観光施設との一体的な情報発信が十分でない。</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県、市の観光部局や周辺施設と連携し、情報発信のさらなる強化を図る。</li> <li>・風土記の丘地内を中心とした古代出雲ストーリーを楽しむことができる周遊コースを情報発信する。</li> <li>・展示内容やイベント、体験プログラム等のさらなる充実を図り、入館者(来場者)の満足度を向上させる。</li> </ul>



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		古墳の丘古曾志公園事業				
目的	誰(何)を対象として	県民及び県外からの来訪者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額	
	どういう状態を目指すのか	古代の文化遺産の保存と活用を図り、県民の古代文化についての理解と認識を深める。		6,230	6,792	
			うち一般財源 (千円)	6,170	6,773	
今年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の安全確保のために、施設の適切な維持管理に努める。</li> <li>・費用対効果や長寿命化の観点から、良好な利用環境確保のため、設備の修繕に努め、事故を誘発するおそれのある設備、不要な投資を招く可能性のある設備の撤去についても検討する。</li> <li>・地元公民館や埋蔵文化財調査センター等の協力を得て、各種イベントの開催や学校等への広報活動を積極的に行い、施設(史跡)への理解を深める。</li> </ul>				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと		・史跡紹介看板の更新、手洗場環境の改善				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策		
2	上位の施策		4	上位の施策		

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	古墳の丘古曾志公園事故発生件数【当該年度4月～3月】	目標値		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	件	単年度値
		実績値	0.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コスト削減のため、教育機能を持った公園としての位置付けを平成19年度から変更して一般の公園として開放している。</li> <li>・指定管理者により園内は良好な環境に保たれているが、建築物・構造物・備品共に老朽化が進行している。</li> <li>・R元、6月に「島根県立古曾志公園(利用促進)委員会」を開催し、地元自治会と意見交換を行った際、「利用促進に向け、適宜施設の修繕や公園の積極的な情報発信を行ってほしい」等の意見があった。</li> </ul>								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女子トイレの一部洋式化、公園案内看板の更新、歩道橋の路面の補修を行うなど、良好な利用環境の確保に努めた。</li> <li>・園内での音楽イベントの開催に合わせ、史跡の広報を実施した。</li> <li>・地域団体と連携して「古曾志公園の紹介しまね遺跡ガイド」や「令和2年の初日の出を見る集い」等の自主事業や周辺自治会、小・中学校への広報活動により、利用促進を図った。</li> </ul>	
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために)支障となっている点	・建築物や構造物の発錆劣化や機器の故障等、全般的に老朽化が進行
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開園後25余年を経過</li> <li>・経費的な問題で抜本的な修繕が困難</li> </ul>
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な園内の見回りや施設の保守点検により、利用者の安全確保を図る</li> <li>・老朽化した個別施設、機器ごとに、安全性や費用対効果をふまえて今後の対応を検討</li> </ul>

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		古代出雲歴史博物館管理運営事業				
目的	誰(何)を対象として	古代出雲歴史博物館の利用者及び県内外の人々		事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	島根の歴史文化に関する研究成果の発信、学習・交流機会の提供により、県内外の方々に島根の歴史文化の魅力を生かし、理解してもらう。			676,897	393,465
今年度の取組内容	島根の歴史文化に関する研究成果の情報発信、学習・交流機会の提供により、県内外の方々に島根の歴史文化の魅力を理解してもらうため、以下のような業務を実施。 ・学芸業務：県内外の方々に對して、島根の歴史文化を知ってもらうため、県内の出土品や歴史資料の展示公開及び情報発信を実施する。 ・交流普及業務：県内外の方々に對して、島根の歴史・文化を理解してもらい知ってもらうため、各種講座やイベントなど交流・普及事業を実施する。 ・広報・管理業務(指定管理)：県内外の方々に對して、郷土の歴史・文化を発信する重要な拠点施設になることを目的に、指定管理者に委託して、効果的な広報及び適切な維持・管理を実施する。					
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	県外での特別展「出雲と大和」の開催(令和2年1～3月)により、銅鐸・銅剣など多くの重要展示品を搬出することから、この期間を捉え、施設・設備の不具合解消に併せて、以下のとおり館の魅力向上を図る改修工事を実施。 ・文化財を適切に保存するための改修 ・展示機能の充実と施設の機能強化 ・特別展「出雲と大和」の展示成果の活用					
1	上位の施策	Ⅵ-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策		
2	上位の施策	Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策		

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	古代出雲歴史博物館入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		240,000.0	240,000.0	240,000.0	240,000.0	240,000.0	人	単年度値
		実績値	170,798.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・出雲大社「平成の大遷宮」の効果が落ち着いたことで平成30年度の入館者数は約24万人であったが、令和元年度は11月18日から令和2年4月23日までメンテナンス工事による長期休館のため入館者数は例年を下回った。 ・普及交流事業として博学連携プログラムを実施しており、学校団体で66校、4,446名の来館利用があった。 ・学芸業務の成果として企画展を2回実施した。 ・東京国立博物館で特別展「出雲と大和」を開催し、古代出雲歴史博物館のPRを行った。								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・観覧後の感想を「大変良かった」、「良かった」とした人が約98%と入館者の満足度が非常に高かった。また「何度も来たい」、「もう一度来たい」とした人が約82%あった。(利用者満足度調査アンケートによる) ・相互誘客の取り組みとして出雲大社と歴博を組み合わせたツアーを引き続き実施し、5,811名の参加があった。 ・県外で特別展「出雲と大和」の開催に合わせて改修工事を行い、施設・設備の不具合の解消、館の魅力向上を図った。
課題分析	① 課題	・出雲大社及びその周辺の観光拠点からの入り込み客を十分に受け取っていない。 ・県外来館者が十分に受け取っていない。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により県内外問わず人の移動が激減している。
	② 原因	・観光客の限られた時間の中で旅行先の選択肢に入っていないと思われる。 ・古代出雲歴史博物館の魅力や価値が十分に伝わっていない。 ・学校教育活動による利用が伸び悩んでいる。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による外出自粛要請があり、解除後も人々の外出に向かう意欲が回復していない。
	③ 方向性	・指定管理者により県外へのセールス活動の強化、海外からの誘客に向けたPRの強化や受け入れ態勢の充実を図る。 ・地元関係者やマスコミなど地域との連携を引き続き強化し、地域に向けたPRを行う。 ・常設展に加えて、企画展、特別展等の内容をより充実させ魅力向上を図る。 ・施設の適切な管理運営を行い、またアテンダントによる質の高いおもてなしにより快適な滞在環境の提供に努める。 ・専門知識を有した人材の確保など、長期的視点に立った運営に努める。 ・学校教育活動による利用増加のための働きかけを行う。 ・安心・安全に観覧してもらえるように感染防止対策を実施する。



## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課 文化財課

事務事業の名称		埋蔵文化財保護事務			
目的	誰(何)を対象として	県民(開発事業者)	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	開発にあたり貴重な文化財が破壊あるいは消失しないよう、計画段階で必要な協議を行い、適切な調整がとられるようにする。		4,247	5,284
			うち一般財源 (千円)	3,129	3,860
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>埋蔵文化財を保護するため、埋蔵文化財の予備調査(分布・試掘調査)を実施し、県民及び開発事業者に対して、結果を周知する。</li> <li>重要な埋蔵文化財の保護のため、事業者や調査を実施した市町村教委に対し、開発区域内の遺跡の保存方法等の取り扱いについて協議を行う。</li> <li>適切な埋蔵文化財調査を実施できるようにするため、埋蔵文化財発掘調査を実施する市町村教委に対し、専門職員等による技術的指導を実施する。</li> <li>埋蔵文化財の保護に必要な措置を図るため、一定面積以上の土地を開発しようとする者に対して、文化財保護法に基づく審査を行う。</li> </ul>				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>島根県GISで公開している遺跡マップを定期的に更新する。</li> </ul>				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	計画段階で協議を経ず着工する開発事業の件数【当該年度4月～3月】	目標値		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	件	単年度値
		実績値	1.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2	県内における周知の埋蔵文化財包蔵地の数【当該年度3月時点】	目標値		11,500.0	11,510.0	11,520.0	11,530.0	11,540.0	件	累計値
		実績値	11,491.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> <li>「周知の埋蔵文化財包蔵地」の計画段階における事前協議は定着してきたが、事前協議が適切に行われずまま工事着手される事例が令和元年度に1件発生した。</li> <li>県及び市町村教委が分布調査・試掘調査を実施し、「周知の埋蔵文化財包蔵地」を新たに11箇所確認した。</li> <li>島根県統合型GISにおいて島根県遺跡マップを公開し、「周知の埋蔵文化財包蔵地」の周知に努めた。</li> </ul>								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>県及び市町村の教育委員会が地域の遺跡分布調査や試掘確認調査を実施したことにより、開発予定地内における「周知の埋蔵文化財包蔵地」の所在やその内容を事前に把握することができ、開発との調整を円滑に行うことができた。</li> </ul>
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点</li> </ul>
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>県及び市町村教育委員会が実施した遺跡分布調査・試掘確認調査・本発掘調査の結果を反映した島根県GIS「島根県遺跡マップ」を公開しているが、最新情報が十分に反映されていない。</li> <li>開発事業者等が事前の調査や協議を行わずに工事着手する事例が発生している。</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>島根県GIS「島根県遺跡マップ」の更新を迅速かつ確実に行うため、県内市町村担当課に対し遺跡カードの速やかな作成及び提出を促すとともに、必要な支援を行う。</li> <li>「周知の埋蔵文化財包蔵地」内での開発の際に必要な手続きについて、市町村から開発事業者等に対する周知が徹底されるよう、市町村に対して適宜働きかけを行う。</li> </ul>

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		文化財活用事業			
目的	誰(何)を対象として	県民	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どのような状態を目指すのか	子供から高齢者まで幅広い世代に島根県の歴史文化を学習する機会を積極的に提供し、ふるさとを誇りに思う心を醸成することで、県民の心に豊かさの向上に寄与する。		2,913	3,627
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「心に残る文化財子ども塾」: 県内の小中学校及び特別支援学校を対象とした古代体験活動や遺跡見学等の出前授業</li> <li>・文化財講座『いにしえ倶楽部』: 親子等を対象とした体験活動、一般の方を対象とした座学講座</li> <li>・埋蔵文化財調査センター講演会: 一般の方を対象に、発掘調査の成果等を情報発信する講演会</li> <li>・まちあるきイベント等: 県内の史跡等の文化財を題材にした「さんいん史跡日和」、発掘調査現場を一般公開する現地説明会</li> <li>・風土記の丘レンタサイクル等: 風土記の丘展示学習館及びガイダンス山代の郷での無料レンタサイクル及び音声ガイドの貸出</li> </ul>				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちあるきイベントの参加者の増加を図るため、広報期間について市町村への意見照会を行い、周知方法の検討を行う</li> <li>・教員向けの文化財活用講座の開催において、教育センターと連携して日程調整を行い、教員の参加者増加を図る</li> </ul>				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	子ども塾、いにしえ倶楽部、まちあるきイベント等の行事開催件数【当該年度4月～3月】	目標値		45.0	45.0	45.0	45.0	45.0	件	単年度値
		実績値	42.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内小・中学校及び特別支援学校数: 平成29年度318校、平成30年度315校、令和元年度311校</li> <li>・児童・生徒数: 平成29年度53,417人、平成30年度53,414人、令和元年度53,341人</li> <li>・「心に残る子ども塾」の実施状況: (平成29年度) 応募38校、計画25校、実施26校 (平成30年度) 応募30校、計画28校、実施28校 (令和元年度) 応募28校、計画25校、実施25校</li> </ul>								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会等やイベントを継続的に実施しているため、固定客や口コミ等による新規客の確保によって安定した参加者数を確保している。</li> <li>・講演会やいにしえ倶楽部の開催にあたっては、ニーズに即した内容を展開した結果、参加希望者は定員を上回るものが多かった。</li> </ul>	
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために)支障となっている点	・県が主催する史跡等をめぐり歩くイベント「さんいん史跡日和」の十分な参加人数が得られていない。
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因	・「さんいん史跡日和」の情報や魅力が県民に十分に伝わっていない。
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「さんいん史跡日和」の体験プログラムの内容の充実を図り、県民に対し、文化財の魅力がより効果的に伝わる内容とする。</li> <li>・「さんいん史跡日和」実施について、市町村と連携の上、SNS等の多様な広報媒体を活用した情報発信を図る。</li> </ul>

## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		埋蔵文化財調査センター事業			
目的	誰(何)を対象として	県民、公共事業者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どのような状態を目指すのか	開発地域内の埋蔵文化財調査を行いその価値を明らかにして、調査で得た情報を県民に還元すると同時に開発事業と文化財保護との調整を円滑に行い、適正な公共事業の促進を図る。		384,464	789,893
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遺跡の価値を明らかにし、保存や活用を図るために、国土交通省や県(土木部)等が広域的に行う公共事業予定地の埋蔵文化財調査を実施する。</li> <li>・埋蔵文化財関係資料を有効活用するため、埋蔵文化財調査センター施設・設備及び収蔵する遺物や図書等の関係資料を、良好な状態で維持管理する。</li> <li>・発掘調査の成果や文化財関連事業に対する理解を深めてもらうために、県民に対し広報等を行う。</li> </ul>				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関(市町村等)の協力を得つつ、発掘調査体制の整備を図る。</li> <li>・国交省や県土木部と密な連絡調整を図り、効率的な調査計画に基づいた調査を行う。</li> <li>・専門職の管理職複数名を調整担当にし、迅速かつ円滑な調整を行う。</li> </ul>				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	発掘調査が円滑に行われなかった件数【当該年度4月～3月】	目標値		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	件	単年度値
		実績値	0.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		公共事業に伴う発掘調査は、開発事業者と調整を図りつつ計画的に実施している。現在、山陰自動車道の事業着手済み区間での発掘調査は、大田静間道路・福光浅利道路等の一部に残っているが、令和2年度以降は大橋川河川改修事業に伴う松江城下町遺跡の発掘調査、松江北道路、国営圃場整備などの事業化も予定されており、発掘調査の増加が見込まれることから、今後も調査量の増加に対応できるように調査体制を維持・整備することが必要となる。								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本発掘調査に先立ち、試掘調査を先行して進め、見込まれる調査量を事前に把握している。</li> <li>・発掘調査の成果については、現地説明会やパンフレット作成、講演会などの実施回数を増やすことにより、埋蔵文化財に対する県民の興味関心に資するとともに、より深く地域の歴史文化の解明を求める県民のニーズに応えられるよう努めている。</li> </ul>
課題分析	① 課題	開発事業の急激な増加などによって生じた発掘調査の増加に対して、迅速な対応が困難となる恐れがある。
	② 原因	現在、県埋蔵文化財調査センターでは、山陰自動車道や江の川直轄河川改修事業や大橋川河川改修事業、中国電力変電所・送電線事業などの調査を実施しているが、開発事業の設計変更などに伴って、突発的かつ緊急な発掘調査の対応が必要となる恐れがあるため。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで以上に、国土交通省や県土木部などの関係機関との連携を密にし、早期の開発事業の現状把握に努める。</li> <li>・突発的な発掘調査事業に早期に対応ができるよう、柔軟な対応が可能な組織のあり方や、市町村との連携について検討を進める。</li> </ul>

## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課 文化財課

事務事業の名称		古代文化の郷「出雲」整備事業			
目的	誰(何)を対象として	県民・市町村	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	出雲部に存在する貴重な文化遺産を、野外博物館としてネットワーク化を図り、物語性のある歴史探訪ルートとして活用してもらう。		26,032	29,972
今年度の取組内容	風土記の丘地内に所在する平成30年度に買上げた「山代二子塚」の追加指定地を整備する(2カ年計画の最終年度)。また、「山代郷北新造院」の追加指定に向けた測量を行う。これら出雲地域の特色ある史跡等を総合的に整備することにより、野外博物館としてネットワーク化を図り、物語性のある歴史探訪ルートを設定して古代ロマンあふれるゾーンとして活用できるように資する。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・公有地化した未整備地等においては、当面の活用を図るため最低限の説明板設置を進める一方、政庁域を中心とする出雲国府跡の継続的な発掘調査、調査研究に取り組む。・風土記の丘地内や出雲国分寺跡の調査・整備活用に取り組む松江市との連携により、当該地を核とした古代出雲ストーリーを構築するとともに、ストーリーに沿った歴史探訪ルートを設定する。				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	文化財活用度(出雲地域の代表的な史跡等(松江城など8か所)の来訪者数)【当該年度4月～3月】	目標値		638,000.0	638,000.0	638,000.0	638,000.0	638,000.0	人	単年度値
		実績値	637,755.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> <li>出雲部の史跡整備及び史跡間のネットワーク化を図る風土記の丘地内整備事業において、その核となる史跡山代二子塚追加指定地の整備事業を開始した。</li> <li>出雲部以外の史跡と連携した活用を図るために、鳥取県と共に山陰史跡ガイドブックについて管下市町村と連携して改訂版を発行した。</li> </ul>								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>山代二子塚の追加指定(買上げ済み)の整備工事を開始し、史跡の保護を図ることができた。</li> <li>出雲国府跡の政庁周辺の発掘調査を実施し、出雲国府跡整備の前提となる遺構の状況や国府中心域の変遷の一端を明らかにすることができた。</li> <li>活用事業として、さんいん史跡日和を開催し、風土記の丘地内における歴史探訪ルートガイドのノウハウを蓄積することができた。</li> </ul>	
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	・風土記の丘展示学習館や風土記の丘地内の史跡の見学者・利用者が頭打ちの状況にある。
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>風土記の丘地内の拠点施設である風土記の丘展示学習館の情報発信が十分でなく、その魅力がPRできていない。</li> <li>史跡出雲国府跡をはじめとする各史跡の整備や、史跡や文化財を結ぶ歴史周遊ルートの設定など、受け入れ体制の整備が十分でない。</li> </ul>
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の整備に向けての継続的な調査研究をすすめ、その積極的に成果を公開する。</li> <li>風土記の丘地内の史跡を中心とした古代出雲に関するストーリーを構築し、各史跡をストーリーで繋いだ魅力ある歴史探訪ルートを設定する。</li> <li>SNSなどを積極的に活用し、風土記の丘展示学習館の情報発信力を高め、地内の史跡や歴史探訪ルートの紹介など、効果的な情報発信を行う。</li> <li>八雲立つ風土記の丘が貸し出しを行っている、史跡の見学者向け音声ガイドや電動アシスト自転車を広くPR活用を図る。</li> <li>公有地化した未整備地等の効果的な活用を検討する。</li> </ul>

## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		未来に引き継ぐ石見銀山保全事業			
目的	誰(何)を対象として	県民、国民等	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値を高め、未来に継承していく。		105,489	120,712
			うち一般財源 (千円)	103,089	120,712
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査研究報告書を発行し、全国の図書館等へ配布、ホームページへ掲載</li> <li>パネル展や動画作成により、調査研究成果を県民等へわかりやすく発信</li> <li>県外講座の開催、リーフレットの多言語化による情報発信強化</li> <li>大田市による文化財の保存整備のための伝統的建造物等の保存事業や情報提供環境整備のための現地での標識整備等を支援</li> </ul>				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査研究成果を効果的に活用し、分かりやすい発信を行うために、調査研究体系の見直しを行った。</li> <li>県内向け情報発信強化のため、ショッピングセンター等の、より効果的な会場でパネル展を計画した。</li> </ul>				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類	
1	石見銀山遺跡に関する調査研究・保存整備の成果が公開された回数【当該年度4月～3月】	目標値		10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	回	単年度値	
		実績値	8.0								
		達成率	—	—	—	—	—	—	—	%	
2	講座等での参加者アンケートにおいて石見銀山遺跡への興味・関心が高まったと感じた人の割合【当該年度4月～3月】	目標値		95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	%	単年度値	
		実績値	91.2								
		達成率	—	—	—	—	—	—	—	%	
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> <li>世界遺産石見銀山の首都圏での認知度(しまねの観光認知度調査)は、H29年度37.7%、H30年度32.9%、R元年度33.9%と推移</li> <li>石見銀山の入込客延べ数は、H29年度324,800人、H30年度246,300人、R元年度265,300人と推移</li> <li>子ども向けワークショップ(出雲市108人)</li> <li>県外講座(第1回広島市314人、第2回東京都260人)</li> </ul>									

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>首都圏における石見銀山遺跡の認知度は県内他地域に対し比較的上位である。</li> <li>石見銀山の入込客延べ数は、近年漸減傾向で世界遺産登録以前と同程度の30万人前後で推移している。</li> <li>調査研究や伝統的建造物の保存整備、標識等の整備など着実に進んでいる。</li> </ul>
課題分析	① 課題	石見銀山遺跡とその文化的景観について、その価値や魅力が十分に伝わっていない。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>石見銀山遺跡は多様な構成資産と広大なエリアを有するため、その価値や魅力を示す情報は膨大で多岐にわたり、魅力が伝わりにくい。</li> <li>調査研究は、登録時のICOMOSの指摘に対応するため、専門性の高い学術的な観点から進めてきており、一般の方にわかりにくい。</li> <li>史跡エリアが広大なため、案内標識やWi-Fi環境等の整備が途上である。</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般の方にとってわかりやすく伝わりやすい研究テーマを設定し、調査研究を推進する。</li> <li>石見銀山遺跡の理解が深まるよう、調査研究を通じたわかりやすい成果の情報発信や体験型イベントを行う。</li> <li>大田市や地元関係団体、他部局等との連携により、石見銀山遺跡の保存整備、情報発信を強化する。</li> </ul>



## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課 文化財課

事務事業の名称		古代文化研究事業			
目的	誰(何)を対象として	県内外の人々	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	県内外の人々に、しまねの豊かな歴史文化の研究成果を情報発信することで、県民に郷土に対する自信と誇りを高めてもらうとともに、県外の人々に島根県の魅力を知ってもらう。		35,838	47,654
今年度の取組内容	(1)企画運営委員会（古代文化センターの調査研究事業の方向性を審議する有識者会議） (2)古代文化基礎研究事業 特色ある島根の歴史文化に関する基礎研究。①考古基礎資料調査研究 ②風土記調査研究 ③中世・近世史料の多角的研究 ④祭礼行事調査研究 (3)古代文化研究事業(テーマ研究) 基礎研究をもとに、外部研究員を交え3年間の研究、4年目に歴博で企画展を実施。 (4)調査研究成果の情報発信事業 上記の研究成果を刊行物により公開。①『古代文化研究』②『しまねの古代文化』③『古代出雲ゼミナール』④テーマ研究報告書など				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	(3)テーマ研究を展示する企画展については、古代出雲歴史博物館と準備の進捗状況を系統的に管理する検討会議を設ける。また、同博物館での博物館実習・展示事業に積極的に古代文化センター職員を派遣し、展示実務能力の向上を図る。				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	古代文化研究事業の成果として「古代文化研究」に掲載された論文数【当該年度4月～3月】	目標値		10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	件	単年度値
		実績値	10.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		基礎研究については、島根の歴史文化遺産について体系的な研究を行い、学術的基盤を構築しながら、テーマ研究につなげている。 テーマ研究については、研究報告書の刊行及び古代出雲歴史博物館での企画展の実施により、研究成果を公開している。								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・『古代文化研究』掲載論文を電子公開するために必要な著作権関係、賤称語の取扱い基準について整理を行い、要項を改正した。
課題分析	① 課題	・研究成果としての『古代文化研究』掲載論文が、外部の研究者に広く知られていない。
	② 原因	・研究成果の公開方法が、『古代文化研究』冊子の発行、配布のみであるため。
	③ 方向性	・『古代文化研究』掲載の論文については、広く活用され島根の歴史文化の研究が進展するよう、随時、電子公開を実施する。

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		島根の歴史文化活用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	県民、国民等	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	しまねの豊かな歴史文化を、県民、国民に広め、県民には郷土への自信を培ってもらい、県外の方々にしまねの歴史文化の素晴らしさを知ってもらう。		286,194	62,588
今年度の取組内容	(1) 展示会開催 里帰り展「行列 雲州松平家と出雲国造家」 (2) 県民参加型事業(講座) ①出雲国風土記連続講座(松江) ②隠岐国巡回講座・ワークショップ ③石見国巡回講座・ワークショップ (3) 県外における情報発信(講座、シンポジウム) ①出雲国風土記シンポジウム(東京) ②東京連続講座 ③日本遺産講座(近畿圏、広島) (4) 他県との連携事業 ①古代歴史文化賞 ②古代歴史文化に関する共同調査研究(14県事業)				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	令和元年度に東京で開催した日本書紀成立1300年特別展「出雲と大和」により高められた島根への興味・関心を更に継続・発展させていくため、日本書紀と出雲をテーマとするシンポジウムを東京で開催するほか、出雲・石見・隠岐各地の多彩な歴史文化の魅力伝える講座を県内外で開催し、効果的な情報発信を図る。				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	III-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	I-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	島根の歴史・文化に関する講座・シンポジウム等参加人数【当該年度4月～3月】	目標値		5,000.0	5,000.0	5,000.0	5,000.0	5,000.0	人	単年度値
		実績値	4,967.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、松江市で開催を予定していた第7回古代歴史文化賞記念シンポジウムを中止したことなどが影響し、令和元年度の講座・シンポジウム等への参加人数は平成30年度(5,283名)よりも減少した。 ・日本書紀成立1300年の節目である令和2年の1月から、奈良県などと共同で東京国立博物館において特別展「出雲と大和」を開催し、島根県と奈良県の歴史文化の魅力を全国へ広く発信した。(来場者136,054名、関連講座等受講者計1,456名、関連イベント来場者計742名) ・観光振興課及び大阪事務所と連携し、大阪でしまねの歴史文化をテーマとした島根学講座を開催した。(2回 計494名参加)								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、特別展「出雲と大和」の会期短縮をはじめイベントの一部中止などを余儀なくされたが、これまで同様、県内外における講座やイベント、他県との連携事業などを通じ、歴史文化の活用・情報発信に取り組んだ。特に、東京で実施した特別展では、13万6千人を超える来場者においていただき、多くの方々にしまねの古代歴史文化の魅力に触れていただいた。
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために)支障となっている点
	② 原因	県内外における講座、イベントなどには毎年大勢の方々に参加していただいているが、しまねの古代歴史文化の魅力の全国における認知度は、まだ十分とは言えない。 ・島根県単独の情報発信では、認知度向上に限界がある。 ・広報、情報発信の手法が限定的、固定化している。
	③ 方向性	・他県との連携の推進 14県共同調査研究の共同研究テーマである「古墳時代の刀剣類」に連携して取り組み、令和4年度の展示会開催と成果図書の刊行を目指すとともに、中間研究発表会を毎年東京で開催するなど、今後も全国へ向けた情報発信を積極的に行う。 古代歴史文化賞の共同主催者である4県に対し、引き続き地元マスコミなどへの周知や広報を積極的に行うよう働きかける。 ・県内外での講座やイベントを継続して開催し、多くの方々に参加いただくことで、しまねの歴史文化の浸透を図る。 ・県内外を問わず多くの方々にしまねの歴史文化に触れ、楽しんでいただけるよう、ホームページやインターネットを活用した情報発信ツールの開発やデジタルコンテンツの充実を図る。